

# 無線博士の三大陸漂流記

中村 康久(NTTドコモ)

工学博士。NTTドコモで米国、フランス、ブラジルのオフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

## [ 第6回 ]

### リオのカーニバル編 ~ 歓喜と喧騒の1週間 ~

photo: 中村康久

リオのカーニバルという名前はよくご存知と思う。日本と地球の反対側のブラジル、リオデジャネイロで毎年感謝祭にあわせて繰り広げられるサンバの祭典だ。

カーニバルは同時期にサンパウロといったブラジルの他の大都市でも開催される。しかし、その華やかさ、話題性、規模では何と言ってもリオが一番である。もっともリオの中流階級の多くは、世界中から観光客が殺到し物価が高騰するこの時期にリオを逃げ出す。バカンスシーズンのパリと同じである。

あまり知られていないが、カーニバルは単なるお祭り騒ぎではなく参加メンバーにとってはチームの誇りと名誉をかけたコンテストである。1チームは数千人のダンサーから成り、2昼夜に渡り20チーム近くがコンテストに参加する。会場のカーニバル専用スタジアムの上空には実況中継のヘリコプターが舞い、その模様は国営TVで2日間に渡り全国に延々と生中継される。参加者の多くはファベアラ(大都市の貧民街)居住者といわれており、彼らにとってはそこから這い上がるにはサッカー選手が音楽家しかないといわれる劣悪な生活環境の中で、文字通り一生に一度の晴れ舞台である。

観光客や外国人がパレードに参加することも可能である。パレードをよく見ると、隊列の最後尾にリズムも踊りもばらばらでカメラ片手にお互い写真を撮りあい、身内で盛り上がっている色白の団がある。彼らはアメリカ人や日本人、ドイツ人といった観光客である。財政難に苦しむサンバチームが、高い参加費と引き換えに、プライドを捨てて?受け入れた素人集団である。

そこは年に一度のお祭り、彼ら外国人の笑顔もファベアラの若者たちと同様、底抜けに明るい。一度カーニバルの前日に、マイアミ発リオ行きのフライトに乗ったことがある。本番を待ちきれない多くの乗客はサンバの衣装をまとい飛行機に乗り込み、機内は既にカーニバル状態であった。

当然ながらこれほど魅力的な世界的観光資源を世間が見過ご



す訳が無い。20人ほどのグループでパレードを鑑賞できるいわゆるBOX席は、毎年世界中の大企業が争奪戦を繰り広げ、華やかなパレードを眺めながらワイン片手にハイレベルなビジネスの交渉や接待の場として活用される。通信の世界でも、市場開放で活気付くブラジルの巨大な潜在市場への参入を狙う企業もその例外ではない。その結果、普段は無味乾燥

な内陸の人工首都ブラジリアの官庁街に籠っているブラジルの高級官僚も、毎年この時期はリオでカーニバルを鑑賞することになる。

私がお付き合いしたブラジルの高級官僚は皆沿って優秀でまじめな方ばかりであった。特にブラジル郵電省は昔から長い間にわたり旧電電公社と人事交流や技術交流を行っており、お互い大きな影響を与えている。例えば通信設備の設計や工事施工を記載する手順書は、日本のやり方を基に作成されたこともあり、ブラジルの電信柱の形状や配線方式は日本そっくりである。

ブラジルの首都サンパウロの一角に、世界最大の日本人街であるリベルダージュという地区がある。この街が強く我々の郷愁を誘うのは、地球の反対側にこのような町並みが存在しているという驚きに加え、電柱や電線を含めた何気ない町の風景が昭和30年代の日本の町並みの懐かしさを再現しているからであろう。

ブラジルには今でも推定150万人の日系人が生活している。多くの日系人は4世、5世を迎え、ほとんど日本語が話せなくなっているものの、日本人としての誇りは相変わらず高い。

今の日本は国際政治レベルでは中国や韓国といったアジアの大切な仲間達と中々うまく友好関係ができないでいる。この友好関係の再構築にブラジルやアメリカを始め世界中に散在する数百万人の日系人ネットワークをうまく活用できないものだろうか。この貴重な日系人ネットワークを用いて緩くてもグローバルな規模での友好関係を構築できれば、21世紀のグローバルビレッジの橋頭堡になると思う。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)